

受精卵課通信 No.30

◎採卵前のホルモン投与

こんにちは、受精卵課の筒井です。今回は採卵前に行っているホルモン処置についてお話したいと思います。

ホルモン処置をしなければ害が出る、といったわけではないのですが、ホルモン処置を行った方がよりたくさんの卵子・受精卵を効率良く回収することが可能なため、欠かせないものとなっています。



◎ホルモン投与の目的

採卵には主に、CIDR やアントリン(FSH)、コンセラルール(GnRH)を処置します。採卵におけるホルモン投与の一番の目的

(メリット)は、通常1個しか排卵されない卵子を、ホルモン投与で卵巣を刺激したくさんの卵胞を**発育・排卵**させることです。また、OPUだと直検で卵巣を触りながら施術するので、卵胞が大きくなった分操作がしやすくなったり、エコーの画面に映る卵胞がより明瞭になり採卵針を刺しやすいついたメリットもあります。

一方、採卵回数を重ねていくとホルモン耐性が出来てしまうというデメリットもあります。

◎本当に採卵数は増えるの??

当ラボの今までのOPUデータの中に、一例だけですがドナー4頭分(ホルスタイン)のホルモン処置あり・なしで行った比較できるデータがありました。(表1)

	ホルモン処置	ドナーA	ドナーB	ドナーC	ドナーD
卵子回収個数(個)	なし	3	5	6	8
	あり	8	18	15	16
発生率(%)	なし	0	0	0	28.6
	あり	42.9	21.4	50	27.3

約2倍!



表1.ドナー毎のホルモン処置区,無処置区比較データ

卵子回収個数、発生率共に上昇しています。まず卵子回収個数が増えた要因ですが、FSHを投与することで育つはずのなかった**卵胞が発育**し、吸引できる卵胞の数が増えたことが挙げられます。そしてそれだけではなく、最終的な受精卵への発生個数にも影響がありました。無処置ではほぼ発生しなかったのですが、ホルモン処置区では平均3割以上の卵子が移植可能胚として発生しました。これは、ホルモン処置により卵胞を刺激したことで、卵胞の中の**卵子の質**を向上させたことが挙げられます。この1年半OPUの卵子を見てきた上で、質の悪い卵子ほど受精卵が出来づらいということはハッキリと言えます。

◎最後に…

個体差があるため必ずしも全部が反応するとは限りませんが、より効率良く採卵するにはホルモン処置は欠かせないものだと思います。いざ採卵をやってみるとなると、注射を何回も打つのが面倒だ〜と懸念される方もいるのではないのでしょうか。預託OPUではその部分もカバーできますので、早く自社OPU預託農場が稼働してたくさんのお客様に利用して頂けるようにになればと思っています。